

2022年度秋学期「大学授業アンケート」集計・分析結果報告



2022年度より、上智大学の授業アンケートが変わりました。上智大学では2021年度に教育に関する質保証体制を整備し、その一環として大学授業アンケートを実施することとなりました。従来は、FD委員会が実施する授業アンケートは全学共通科目を対象とし、学科科目・語学科目等については、各学部やセンターが主体となり個別に授業アンケートを行っていました。2022年度からは「大学授業アンケート」として、それらを統一し、共通の設問による授業アンケートを行うことで、回答の全学的な分析が可能となりました。

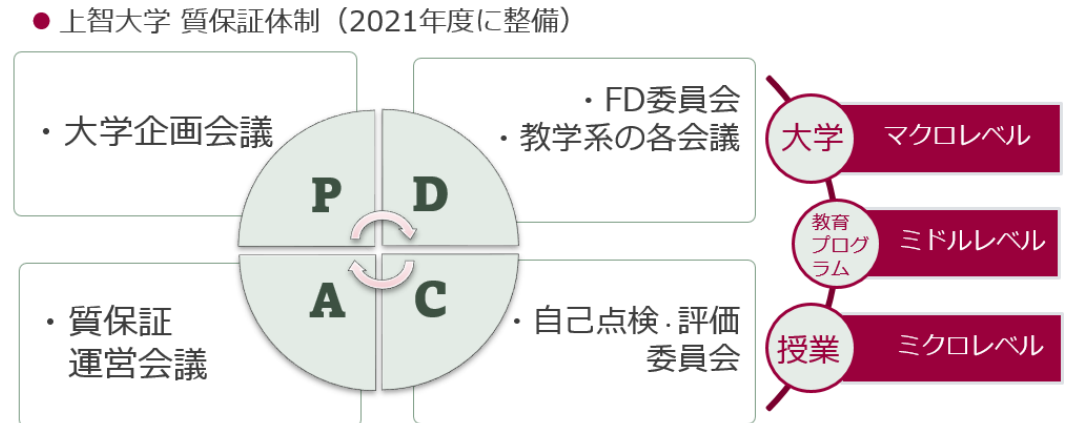
アンケート結果を各授業の改善に生かすだけでなく、上智大学の未来を考えるために活用していきます。

○アンケート実施時期：（3Q科目）2022年11月7日～11月18日、（4Q・秋学期開講科目）2023年1月6日～1月30日

○アンケート実施方法：Loyola アンケート機能

○2022年度秋学期大学授業アンケート結果の活用について：

- ・2023年2月中旬 各授業の回答結果を主担当教員に開示
- ・2023年3月
 - FD委員会にて、集計分析結果を審議、検討
 - 各学部に、アンケート回答（自由記述等含む）に基づく、個々の授業おける検討課題を報告、改善を呼びかけ
- ・2023年4月
 - 全学FDセミナーにて、集計分析結果報告会を実施
 - 「学生が選ぶ Good Practice」表彰者、14科目12名を選出



【2022年度秋学期大学授業アンケート設問】

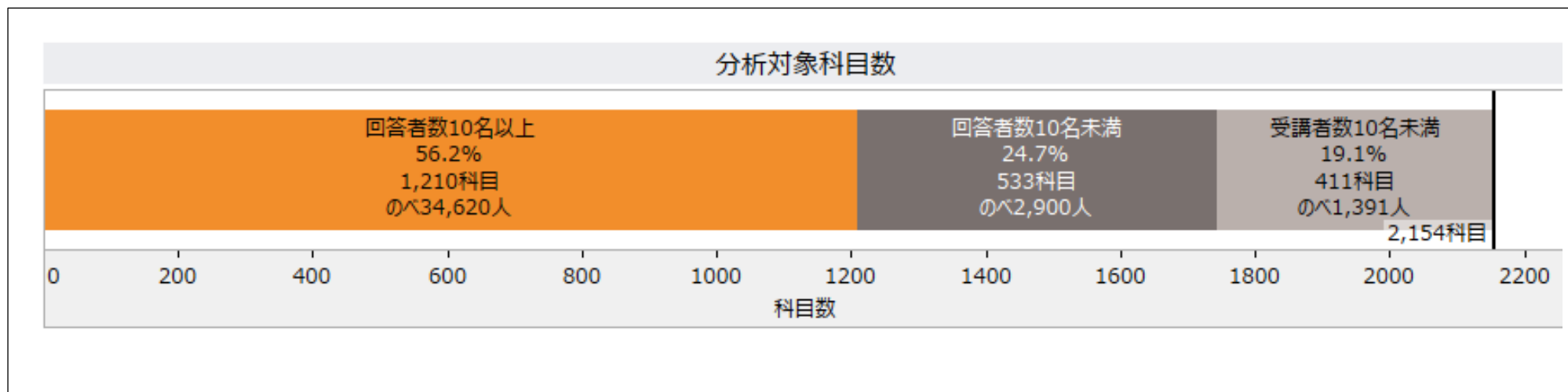
設問1	この授業における教員の説明はわかりやすかった。
設問2	この授業に対する教員の意欲を感じた。
設問3	教員との質疑応答や教員からのフィードバックの機会があった。
設問4	学生同士で議論を行ったり、プレゼンテーションをしたりする等のアクティブ・ラーニングの機会（オンライン掲示板等含む）があった。
設問5	学修した内容が在学中もしくは卒業後にどのように応用されるかを学ぶ機会があった。
設問6	知識を相互に結びつけることにより、多様なものの見方や考え方が身につく授業だった。
設問7	他者や自分の意見を十分に吟味して客観的・論理的に思考する力（クリティカル・シンキング）が身につく授業だった。
設問8	私はこの授業で主体的に（自分なりの目的を意識して持続的に）取り組んだ。
設問9	シラバスで示されたこの授業の到達目標が身についた。
設問10	この授業を受けて知的に刺激され、深く勉強したくなった。
設問11	この授業1回に対して授業時間外に費やしたすべての時間（友人との意見交換、参考図書の精読等も含む）は、どれくらいですか。
設問12	この授業の受講を検討している人がいたら、勧めることができる。
設問13	設問12の回答の理由（良い点・改善の必要な点）を教えてください。

【集計分析結果】

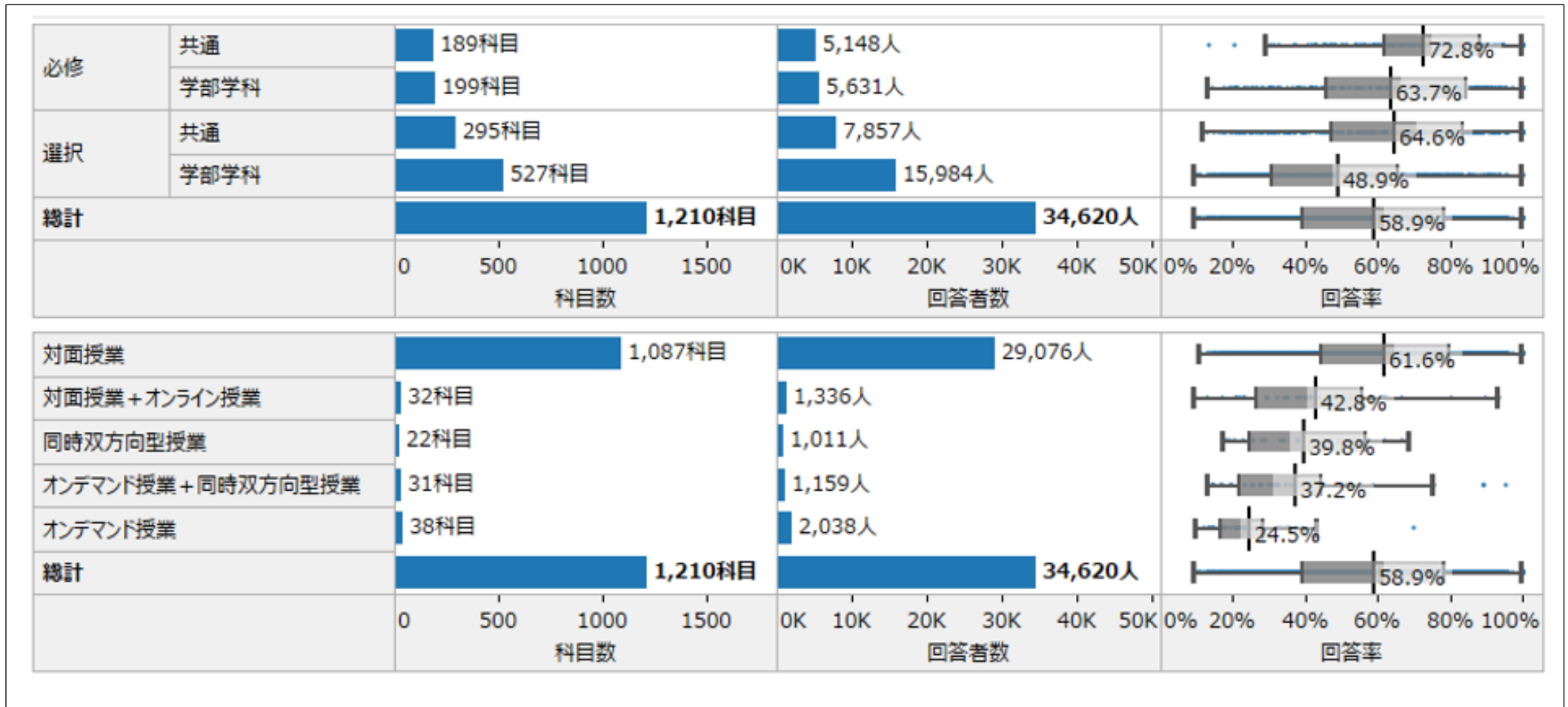
1. 2022年度春学期に学部で開講された2,706科目のうち、授業アンケート対象科目は2,154科目でした。

そのうち、データの信頼度の観点から、回答者数10名未満の科目や受講者数10名未満の科目を除外し、1,210科目（2,154科目の56.2%）を集計分析対象としました。一人の学生が複数の授業に回答しており、延べ34,620件の安定的な集計分析が可能なデータ数となっています。

また、回答者数は8,460名で、学部生（学籍状態「在学」）の約70%でした。

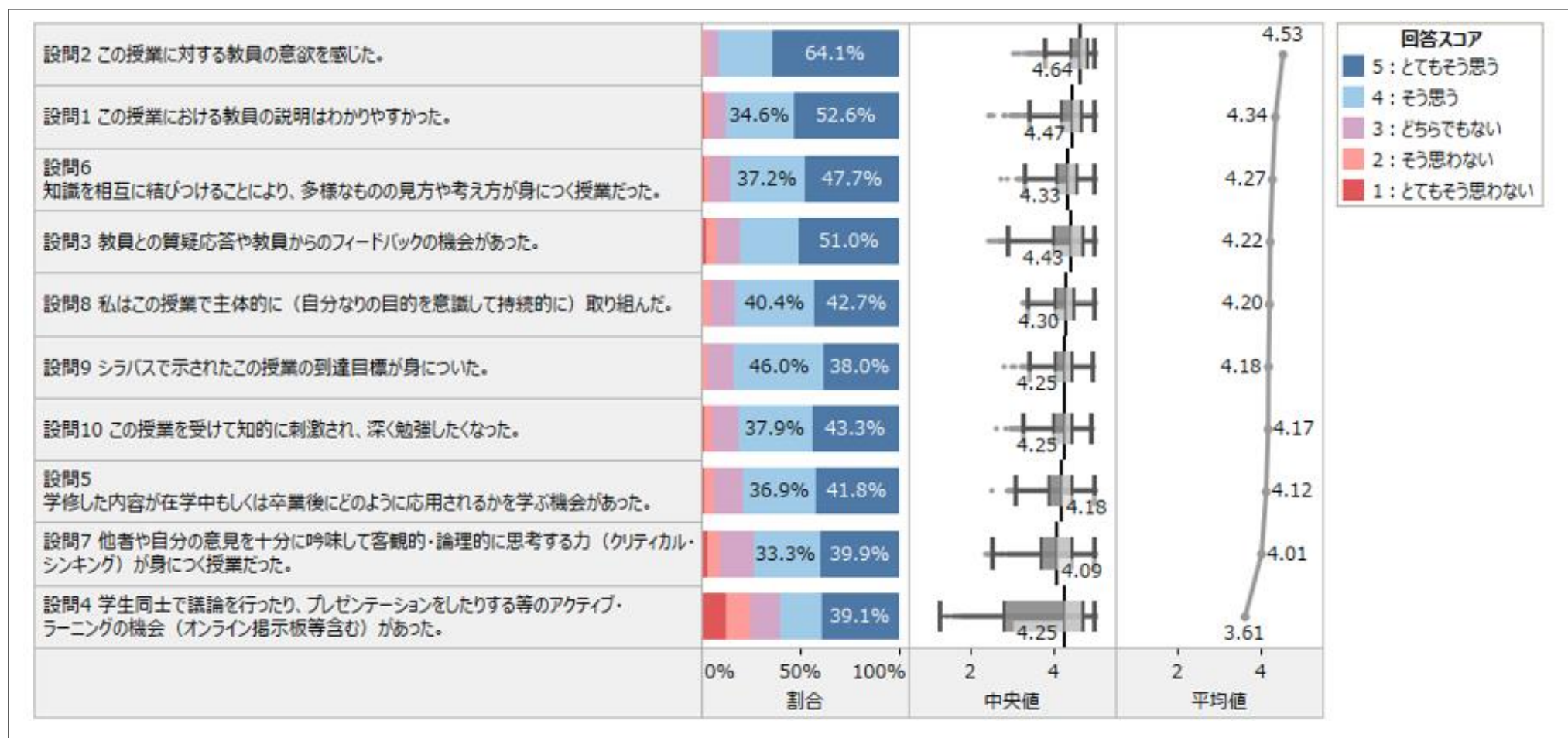


2. 必修科目と必修科目以外（表では「選択」と表記）の回答率では、選択科目よりも必修科目の方が、全体的に回答率が高いという傾向が見られます。学部学科科目と全学共通科目で分けたところ、必修か必修以外かによらず学部学科開講科目よりも全学共通科目の方がどちらも回答率が高い傾向が見られます。また、授業形態ごとに見ると、対面授業は、回答率が高い傾向にあります。



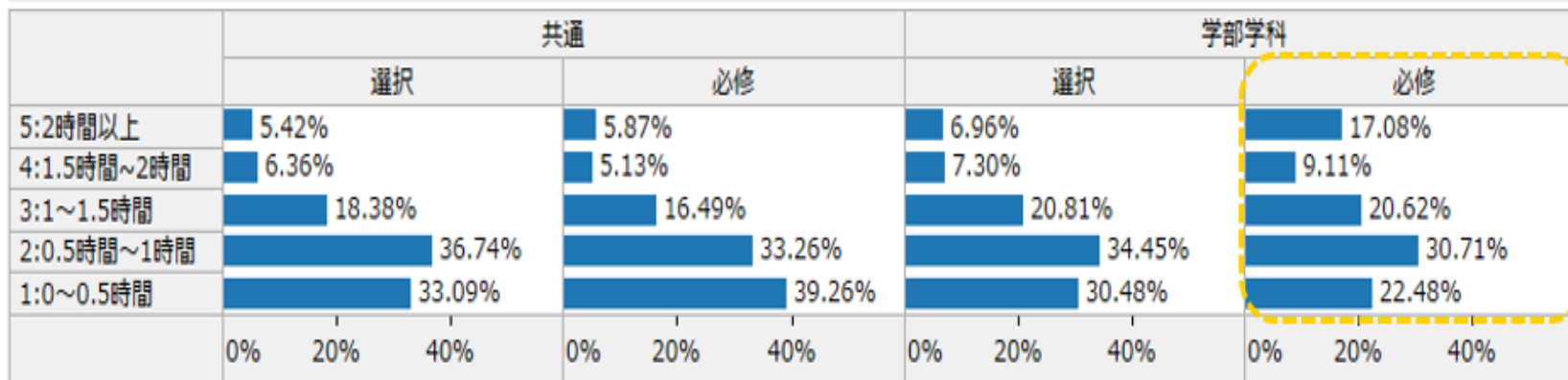
3. 設問1から設問10までを5段階の評価を得点化（全く当てはまらない：1点～よく当てはまる：5点）し、「割合」欄で得点の割合を色付きの棒グラフで示し、「平均値」欄で平均値を示すとともに平均得点の高い順に並べました。表中の「中央値」欄は「箱ひげ図」と言い、最小値と最大値のばらつき具合を図示したもので、箱ひげ図中の数値は、中央値を示しています。ここから分かるのは、「この授業に対する教員の意欲を強く感じた（設問2）」、次いで「この授業における教員の説明はわかりやすかった（設問1）」について、8割から9割弱の学生が高く評価している点です。

一方、課題としては、「教員との質疑応答や教員からのフィードバックの機会があった（設問3）」では、平均値では4.22点と高いものの、箱ひげ図の広がりが大きく、フィードバックの機会の有無については授業によってばらつきがあることを示しています。また、「学生同士で議論を行ったり、プレゼンテーションをしたりする等のアクティブ・ラーニングの機会があった（設問4）」は、評価のばらつきが大きくなっています。



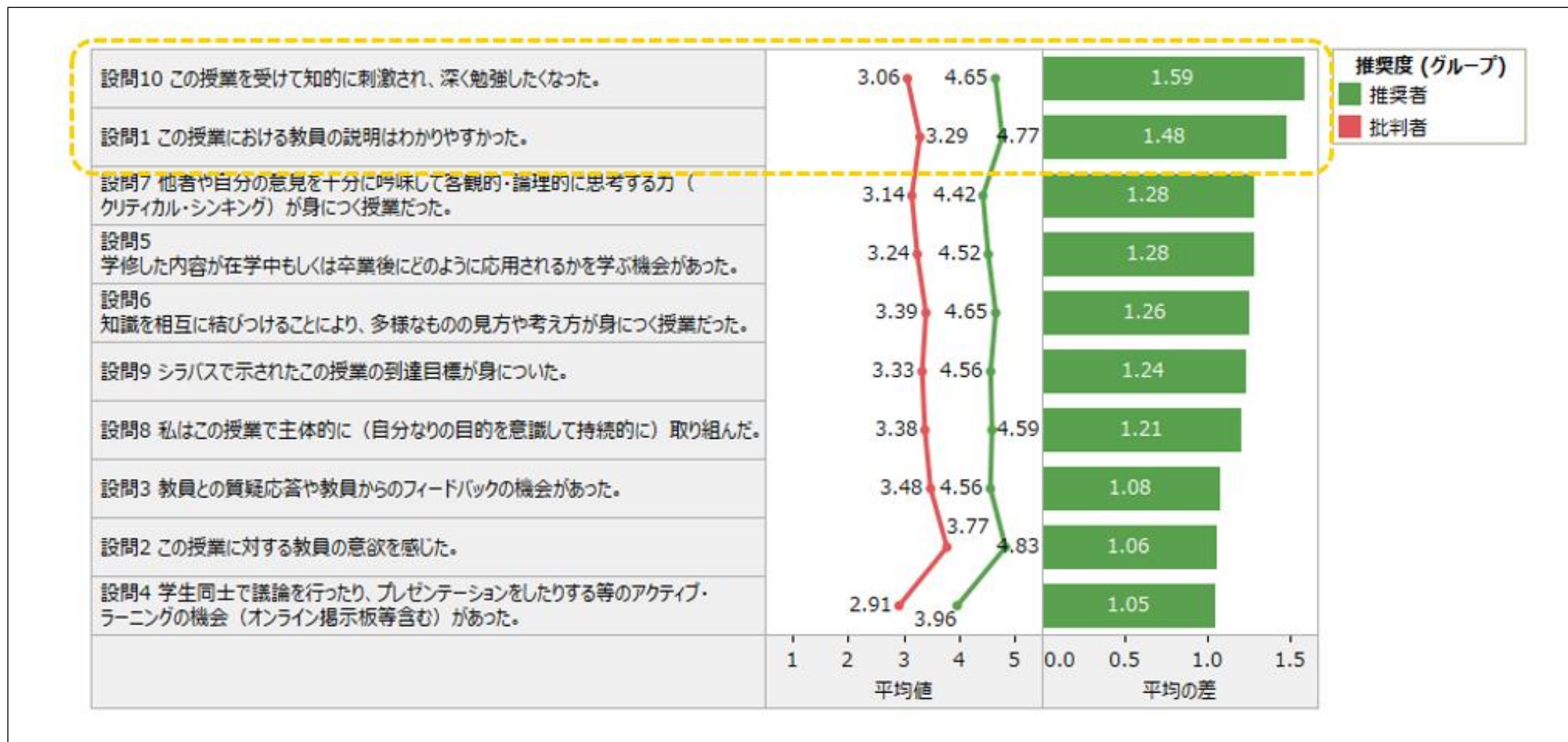
4. 授業外学習時間について、全学共通科目よりも学部学科科目の授業外学習時間が長いことが分かります。学部学科科目では必修科目の方が、授業外学習時間が長いという傾向がみられます。

設問11 授業外学修時間

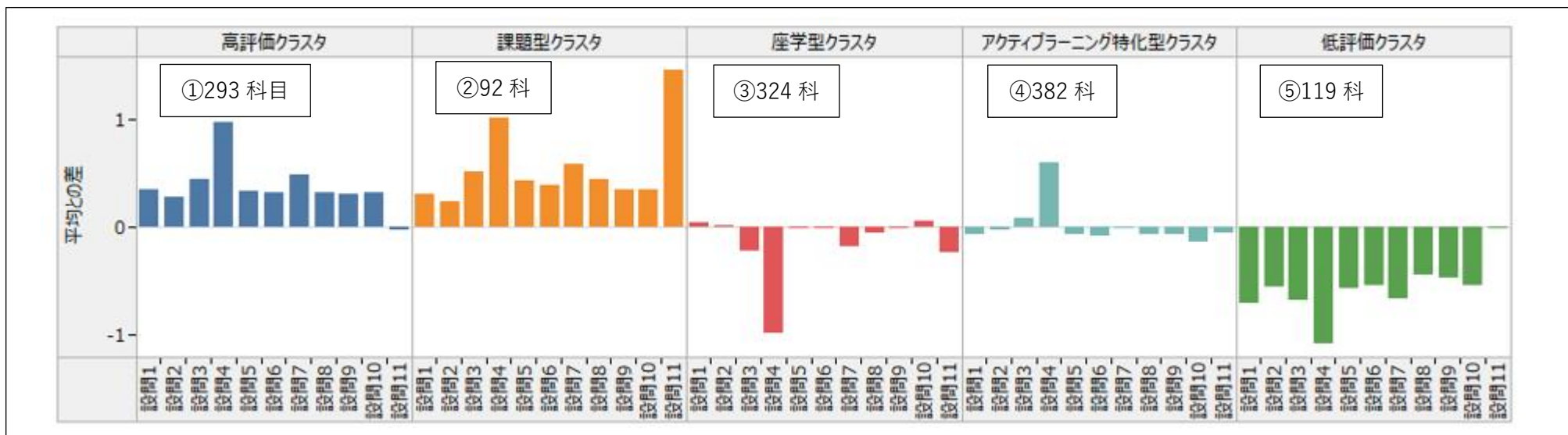


5. 設問12「この授業の受講を検討している人がいたら、勧めることができる」の回答（0点～10点）を、推奨者（9点～10点）、中立者（7点～8点）批判者（0点～6点）に分け、推奨者と批判者の設問1～設問10の回答（得点）差の状況を下図にまとめました。

その結果、すべての設問において、推奨者が批判者を大きく上回りました。特に「知的に刺激され深く勉強したくなった」「教員の説明がわかりやすかった」の差が大きくなっています。このことから、春学期の決定木分析の結果と同様、本学学生にとって「知的に刺激される」こと、また、「説明の分かりやすさ」が、推奨度を決める要素であると結論づけることができます。



6. 2022年度秋学期は、春学期の決定木分析に変えて、クラスタ分析を行いました。
 本学の授業は、回答パターンによって5つのクラスタに分類されました。



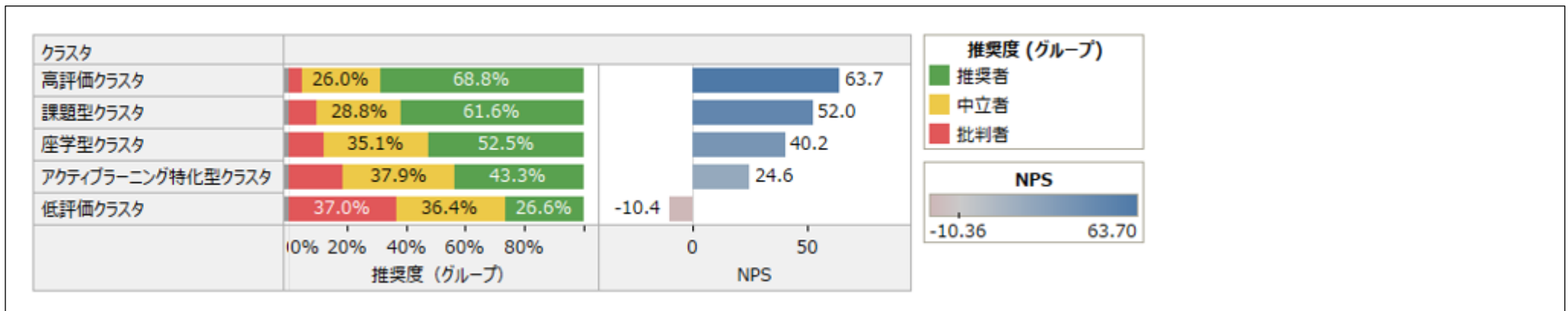
- ①すべての設問で平均得点よりも得点が高い群（高評価クラスタ）、293科目。
 ②全設問で評価が平均より高く、授業外学修時間が長い（設問11）群（課題型クラスタ）、92科目。
 ③従来の座学形式の講義で、フィードバック（設問3）およびアクティブ・ラーニング（設問4）の得点が平均より低く、課題（設問11）が少ないという特徴が見られる群（座学型クラスタ）、324科目。
 ④アクティブ・ラーニングのみ得点が高い群（アクティブ・ラーニング特化型クラスタ）、382科目。
 ⑤授業外学修時間は平均程度だがすべての設問の得点が低い群（低評価型クラスタ）、119科目。

この分類ごとに、推奨度（NPS）の違いを下グラフにまとめています。

例えば、従来の講義形式と目される③座学型クラスは、学生の推奨度 40.2 ポイントとなっています。また、②課題型クラスの推奨度は 52.0 ポイントと高いことから、課題が多くても推奨度が大きく低下することはないことが分かります。

推奨度（NPS）が高い①高評価クラスや②課題型クラスを見ると、その要因としてアクティブ・ラーニングが取り入れられているか（設問4）が挙げられますが、一方、④アクティブ・ラーニング特化型クラスは、推奨度が 24.6 ポイントと低く、このことから、アクティブ・ラーニングを行っているだけでは推奨度が高くなるわけではないが、高推奨度の授業の前提としてアクティブ・ラーニングが取り入れられているということが言えます。

また、⑤低評価型クラス（推奨度 -10.4 ポイント）の 119 科目の授業を改善していくことが、本学の授業全体の質を上げていくことに繋がると言えます。



学生が選ぶ「Good Practice」表彰 -2022年度秋学期-

・アンケートによる評価を点数化し、回答率を加味した総合的評価によって選出。表彰科目数は、選考対象となった科目の1%に相当する14科目。

【受講者数 10名~30名の区分】

開講所属名	科目	主担当教員	前回GP受賞
文学部新聞学科	演習Ⅰ（メディアリテラシー）	高橋 直治	◎
外国語学部英語学科	ACADEMIC WRITING 2	KAUFMAN Marc	◎
外国語学部英語学科	METHODS IN TEACHING ENGLISH E	峰松 愛子	
総合グローバル学部総合グローバル学科	特講（国際教育開発）	荻巣 崇世	◎
総合グローバル学部総合グローバル学科	演習（比較教育学）2	荻巣 崇世	◎
言語教育研究センター	ACADEMIC COMMUNICATION 2 (INTERMEDIATE II)	林 董	
言語教育研究センター	アカデミック日本語 1-2	佐藤 紀美子	

【受講者数 31名~100名の区分】

開講所属名	科目	主担当教員	前回GP受賞
総合人間科学部社会学科	エイジングと世代の社会学	田淵 六郎	
外国語学部英語学科	CULTURES OF THE ENGLISH-SPEAKING WORLD 2	KAUFMAN Marc	◎
全学共通科目	探究的な学びを創る：調査スキル	新 江梨佳	

【受講者数 100名以上の区分】

開講所属名	科目	主担当教員	前回GP受賞
総合人間科学部心理学科	教育・学校心理学	稲垣 智則	
経済学部経済学科	金融論Ⅱ	川西 諭	
全学共通科目	キャリアワークショップ「問題解決のための思考法」	宇野 健司	◎

【輪講】

開講所属名	科目	コーディネーター	前回GP受賞
全学共通科目	SDGsとグローバルリスク	西澤 茂	

以上